

豊かなウォーターフロント2019フォトコンテスト

—みなとと海岸の写真コンテスト—

本コンテストは、写真を通じて海辺や港の四季折々、津々浦々の姿を表現していただき、ともすれば港と疎遠になりがちな方々に対してその素晴らしさを再認識していただくと共に、ウォーターフロントの景観への意識を高めることを目的としています。

今年で28回目の本コンテストには、363点もの応募がありました。いただいた作品に対して令和元年10月26日に厳正なる審査を行った結果、次のとおり素晴らしい入選作品を決定させていただきました。

総評

令和元年と年号も改まったせいでしょうか、見応えのある作品、新しい被写体や写し方に挑戦した作品も多く、バランスをとるのが難しい審査となりました。結果は御覧のとおり、充実した内容となりましたが、前回とは違う傾向が現れています。それは被写体の集中・偏りです。撮影場所や撮影状況が同じ作品が増えているのです。具体的には、上位入賞作品13点のうち横浜港が4点、夜景が5点でした（ダブリを含む）。

横浜港は、一言でいえばいろいろな港の姿が見られる場所なので、応募点数が多かったのはうなずけます。写しやすく、シャッターチャンスが得やすい、はやりの言葉でいえば「港撮影の聖地」でしょう。また夜景は、昼間だと煩雑に見える風景の諸々が闇に省略され、照明光の鮮やかな色彩・コントラストが際立って「刺激の強い」作品が創りやすくなります。デジタルカメラは肉眼では見えない光の綾も写しとってくれますし。

ということで、今回の結果を応募された、また来年応募される皆様がどうとらえるか、来年が楽しみになりました。



最優秀賞
国土交通大臣賞
山本健太郎
船の誕生！
宇和島港三好造船所



造船所で行われる華やかな行事、進水式を描いた作品です。これまでも多くの方が撮影・応募されていてハードルの高い被写体ですが、視点の違いが新しい作品を生み出しました。ここには賑わいはありません。その代わりに、船体・クレーンが晴天の強烈な直射光によってコントラスト強く「鋼の光景」として描かれ、風に揺らぐ大量の紙テープがこの日を祝っているかのようです。



中野金吾 新潟東港
けむり輝く
国土交通省港湾局長賞



埠頭の夜を、三脚を使用し長時間露出で描いた作品です。昼間と同じで、夜に撮影するときも天候の影響は大きいものですが、風を効果的に利用し写真でしか表現できない「煙のぶれ」が描かれています。水面の反映像が崩れずに煙はなびくという絶妙なタイミングです。照明によって煙が雲のように浮かび上がって美しく、上下に割った対称的で端正な画面構成も見事です。



平野昌子 横浜港
輪になって踊ろう
(公社)日本港湾協会会長賞



臨港パークで行われた「みなとみらい大盆踊り」。「横浜港を望む抜群のロケーションが目前に広がる」といわれるとおりの撮影場所を見つけたことが成功のポイントです。高いところから俯瞰することで横浜港を遠景に収めることができ、より臨場感が増しました。また、中景・遠景を中心に画面をまとめたことで、F5.6という浅い絞り値でも必要十分なピントが得られました。



岬の端に静かにたたずむ灯台に真正面から向きあい、その存在感を見事にとらえました。撮影場所の制約もあるのですが、太平洋を背景にして南方向にカメラを向けたことで、夜明け時の光が生かされた画面になりました。東から差す光はまだ低く、地上は闇の中に省略され、画面左から右への空の濃淡が美しく、ガラス窓に反射する光が灯台に生命力を与えているようです。



Morningsun
石川賢一 室戸岬灯台
港湾海岸防災協議会会長賞



日本の繁栄は世界中との交易に支えられているわけですが、それを担っているのが海運ということを改めて感じさせてくれる広大な埠頭風景です。作業を終えた夜の風景のためか、よけいに「物」の存在感が感じられ、高所からの俯瞰による放射状の遠近感によってそれが強調されました。また、照明の違いによるオレンジと白、それに空の濃い青色のコントラストが効果的です。



彩美
大西宏徳 東京港
みなとの活動部門賞



松山 進 横浜港
水柱立つ
 防災部門賞



赤レンガ倉庫のイベント広場で行われた「横浜消防出初式2019」。「集い 学び 楽しめる安全安心フェスティバル」と銘打たれ、防災意識の向上と知識の啓発を目的としたイベントがありますが、これは消防団などによる一斉放水をとらえた作品です。近くで見たくるところですが、離れて全体を描いたところがポイント。タイミングよく写した放水が逆光に輝いて印象的です。



清水 進 横浜港
賑わう大さん橋
 賑わい部門賞



大型のクルーズ客船の出港・見送りの情景でしょうか。大さん橋に居並ぶ人々から船の最上段でこちらを見下ろす人々まで、何人写り込んでいるのでしょうか。船の前後を切り取って建物のように写すことで、これだけ大勢の人々を収めながら画面がよく整理されています。特に、栈橋上の人々はそれぞれ動作に変化があり、全員後ろ姿ながら生き生きと描写されています。



江戸時代に荒磯を掘り込んで造られた、奥行きがあり、海が荒れた時にも多くの船が避難できる良港とのこと。掘り込んだ時に残った岩を取り込んだ岸壁が、港の成り立ちを感じさせます。何気ない光景のように見えますが、穏やかな海面、瓦屋根の大きな家が続く町並み、道を行く山車など、歴史を感じ、また往時の豊かさを感じさせる風景をけれんみなく切り取っています。



自然・歴史部門賞
山西典夫 室津漁港
荒磯掘り込みの港



昭和31年に貿易港として開港した水俣港は、一般貨物の他に当地特産の良質な木材の取り扱いが多い港。近年、輸用量が増えてよく見られるようになった荷役作業風景が、端的にとらえられています。快晴の空を反映して海面は青濃く、雲が全くない空に木材を挟み込んだ重機の赤いアームが鮮やかです。



優秀賞
米倉勝 水俣港
急ピッチで木材積込中



優秀賞
大型客船入港
 田中和夫 横浜港



部門賞の作品とは違って、埠頭全体の賑わいが主題となっています。雲一つない快晴の光が強い陰影を作り出し、行き交う人々の姿は暗くつぶれ気味ですが、大型のクルーズ客船の量感を重厚に描写しています。何気なく写し込まれた桜木町駅行きの赤いバスが画面を引き締めてくれました。



優秀賞
背景に2020選手村建設中
 齋藤力 東京港レインボープリッジ上



画面左のクレーンが選手村建設現場だとすると、手前は晴海ふ頭のあたりでしょうか。背景に立ち並ぶ高層マンションを始めとしたビル群が、大都会に隣接した埠頭の立地を物語っています。艦番号5003、2代目砕氷艦「しらせ」の赤とベージュの色鮮やかな船体が印象的です。

伏木富山港の新湊地区は、富山高岡地区新産業都市の新しい流通拠点として昭和43年に開港。新湊大橋は、日本海側最大級の2層構造の斜張橋。日没後の夕映えにシルエットとなったガントリークレーンと、ライトアップされた大橋が、距離感のなくなった画面の中で昼間とは全く違う風景を作り出しています。



優秀賞
後谷弘

富山新港



優秀賞
島崎守

港のお客さま
四日市港

タイトルのお客様は、ヨットではなく杭に止まったサギでしょうか。隣接する四日市コンビナートの夜景を背景に、青を基調とした画面が印象的です。三脚を使用しての10秒の長時間露出でヨットがシャープに写っているのは、よほど風いでいたのでしょうか。サギも撮影に協力してくれたようです。



優秀賞と入選の境界はいつも微妙で、毎回、最後の線引きに時間がかかってしまいます。作品の良いところだけを見ていると順番はつけられません。マイナス点で判断することになります。

減点項目の第一はコンテストではよくあることですが、前回の入賞・入選作と同じ被写体を同じように写していること。魅力的な被写体はだれでも写したくなりますが、同じように写したのでは、よほど前作を上回らなければチャンスは薄くなります。独自の視点が大切です。

二点目は、応募要項に沿っているか。本コンテストは、どれだけ良い作品かを競うものではありません。もちろん、写真のコンテストですから質の高さは重要ですが、それがすべてではなく「ウォーターフロント」の魅力がどれだけ表現されているかがより大切です。

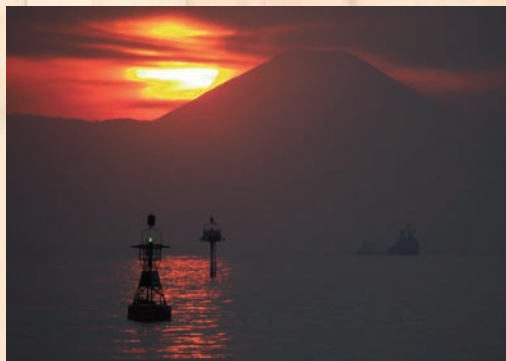
三点目は、ていねいに仕上げているか。撮影時でいえば、きちんと水平・垂直を出して写すということ。プリント時の発色の調整も大切です。色が濁っていて残念というプリントは毎回見かけます。

来年は入賞を目指して、ご応募をお待ちしています。

入選 成岡 勲
一生懸命



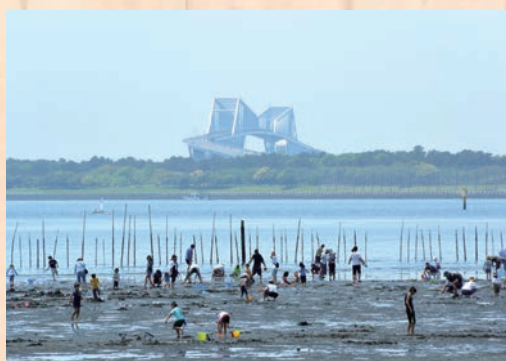
入選 長濱 純
港の落日



入選 横田 孜
港のプラント



入選 端 雅利
潮干狩りIN東京



入選

橘川春海
台風への備え



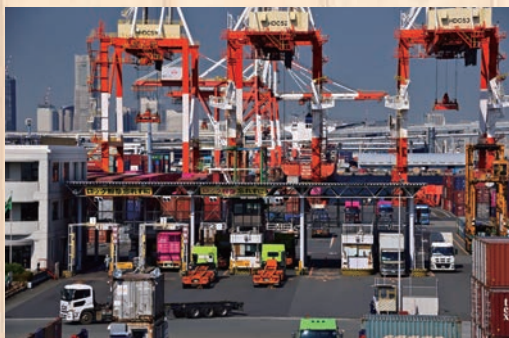
加藤誠司
賑わう港



白石信夫
Wレインボー



西山昌敏
朝のゲート



吉田茂夫
群舞



末光則夫
跳ね上がる鎖



山崎秀司
荒波の灯台



石川元章
横浜船渠第2号ドック



西山敦

入選 朝焼けの工場



永田勇

入選 KABA号田子上陸



丹羽明仁

入選 ファンタジー



望月信明

入選 午後の出港



糸賀一典

入選 白色の石造波止場と高燈籠



山田宏作

入選 波紋



乗松賢二

入選 進水開始



金岡明光

入選 田子の浦港の朝焼け



入選

雪本信彰
津波避難タワーのある風景
入選



大高久昌
船神輿出港の時
入選



横山朋子
光る港 集う人々
入選



齋藤富男
開港150年の港守
入選



小高紘佑
セーリングワールドカップ
入選



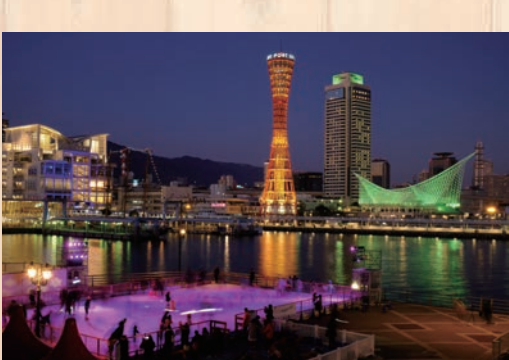
白石信夫
港の朝
入選



片山和澄
歩道陥没修復工事
入選



浅見崇司
休日のアイスマリーナ
入選



入選 サバニ
おおき ゆうこう



入選 堀川の春
山西典夫

国土交通大臣賞	山本健太郎	「船の誕生！」(宇和島港三好造船所)
国土交通省港湾局長賞	中野金吾	「けむり輝く」(新潟東港)
(公社)日本港湾協会会長賞	平野昌子	「輪になって踊ろう」(横浜港)
港湾海岸防災協議会会長賞	石川賢一	「Morning sun」(室戸岬灯台)
みなとの活動部門賞	大西宏徳	「彩美」(東京港)
防災部門賞	松山 進	「水柱立つ」(横浜港)
賑わい部門賞	清水 進	「賑わう大さん橋」(横浜港)
自然・歴史部門賞	山西典夫	「荒磯掘り込みの港」(室津漁港)
優秀賞	米倉 勝	「急ピッチで木材積込中」(水俣港)
	田中和夫	「大型客船入港」(横浜港)
	齋藤 力	「背景に2020選手村建設中」(東京港レインボーブリッジ上)
	後谷 弘	「暮色」(富山新港)
	島崎 守	「港のお客さま」(四日市港)

入選	成岡 勲	「一生懸命」
	横田 孜	「港のプラント」
	長濱 純	「港の落日」
	端 雅利	「潮干狩り IN 東京」
	加藤誠司	「賑わう港」
	西山昌敏	「朝のゲート」
	末光則夫	「跳ね上がる鎖」
	石川元章	「横浜船渠第2号ドック」
	橘川春海	「台風への備え」
	白石信夫	「Wレインボー」
	吉田茂夫	「群舞」
	山崎秀司	「荒波の灯台」
	糸賀一典	「白色の石造波止場と高燈籠」
	山田宏作	「波紋」
	乗松賢二	「進水開始」
	金岡明光	「田子の浦港の朝焼け」
	西山 敦	「朝焼けの工場」
	永田 勇	「KABA号田子上陸」
	丹羽明仁	「ファンタジー」
	望月信明	「午後の出港」
	大高久昌	「船神輿出港の時」
	齋藤富男	「開港150年の港守」
	白石信夫	「港の朝」
	浅見崇司	「休日のアイスマリーナ」
	雪本信彰	「津波避難タワーのある風景」
	横山朋子	「光る港 集う人々」
	小高紘佑	「セーリングワールドカップ」
	片山和澄	「歩道陥没修復工事」
	おおき ゆうこう	「サバニ」
	山西典夫	「堀川の春」

主催
(公社)日本港湾協会
港湾海岸防災協議会

後援
国土交通省

協賛
(一社)日本旅客船協会
(一社)ウォーターフロント協会
(一社)日本外航客船協会
(一社)日本マリーナ・ビーチ協会
(一財)みなと総合研究財団
(一財)港湾空港総合技術センター
富士フィルムイメージングシステムズ(株)

審査員 (順不同・敬称略)

東京工業大学大学院教授
齋藤 潮

敬愛大学特任教授
廻 洋子

写真家
富岡畦草

写真家
松野正雄

写真家
逸見 仁

国土交通省港湾局海岸・防災課長
杉中洋一

国土交通省港湾局海洋・環境課長
松良精三

(公社)日本港湾協会理事長
須野原 豊